

(株)お茶の木野園

代表取締役

木野正男さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「家族全員で育ててきた茶業を後世に継いでもらうため、法人化に踏み切った」と話すのは、

南山城村北大河原地区の(株)お茶の木野園代表取締役の木野正男さん(72)。妻の怜子さん(71)と茶の生産・加工に取り組んできた。二人の姿を見てきた娘の友美子さん(47)が同社の経営に参画し、夫の章人さん(51)も定年退職後、本格的に茶業を引き継ぐ計画だと、木野さんは目を細める。

三重県出身の木野さんは24歳の時に「自らの手で何かを作りたい」との思いを募らせ、大阪の会社を脱サラ。宇治茶の生産

農家だった怜子さんの実家に婿養子として入った。しかし、茶作りは初めて。茶匠として有名な山下壽一さんに師事して一から学んだものの、気候の変化や摘み取り時期で品質が大きく左右され、苦難の連続だったと振り返る。

「毎々がゼロからの挑戦」と、持ち前の努力と品質向上へのこだわりで、少しずつ茶の生産と加工の技を身に付けることがで

きた。

就農11年目で、京都府茶品評会「煎茶の部」で農水大臣賞を受賞。その後も「茶葉に語り掛けるながら育てていく」ことをモットーに、家族全員で高品質茶に取り組み、大臣賞を9回、怜子さんも1回受賞した。

さらに友美子さんの発案で、茶園にモーツァルトの曲を流して育てた「モーツァルト茶」が2007年の「第1回世界緑茶コンテスト」で最高金賞と、関西茶品評会で大臣賞のダブル受賞に輝いた。

木野さんは茶業をしっかりと次世代に引き継いでもらうためには法人化が必要だと考え、JA京都やましろなどの支援を

受けて、12年12月に同社を設立した。怜子さんと友美子さんも取締役として経営に加わる。現在は、高品質の茶生産に加えて、需要が見込まれるてん茶の生産・販売を増やす他、周辺の生産者から約5分のてん茶加工を受託することで、同地区の茶生産の下支えに取り組み。

木野さんは府の「宇治茶伝道師」となって、若い世代などに宇治茶の魅力と文化を伝える活動も行っている。こうした取り組みが評価されて、14年度には黄綬褒章を授章した。

「法人化で、茶業経営を引き継いでもらえるめどができた。経営環境は厳しいが、天皇杯を目指して高品質でおいしい茶作りを目指したい」と意気込む。

■法人所在地 南山城村北大河原七尾鳥62。(電)0743(93)0172。

■法人概要 2012年12月13日設立。役員3人。農繁期に臨時雇用6人。てん茶5鉢、煎茶2鉢で両加工施設。乗用摘採機3台。

高品質茶 家族で守る



▶ 家族で高品質茶生産を目指す木野正男さん